

なっちゃん隊 深掘りレポート V o l . 2 牛のお世話（昔編）

NHK連続テレビ小説「なつぞら」のポスターはご覧になりましたか。

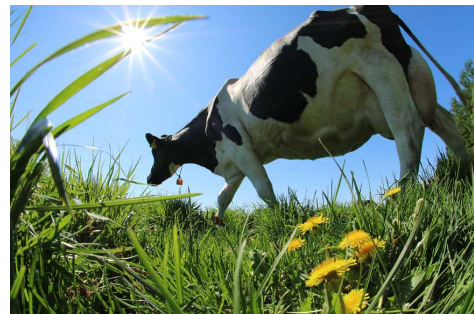
“なつ”の横でリラックスした子牛。今回は、昔ながらの牛のお世話について、振興局なっちゃん隊が調べてみました。



牛は昔から家畜として飼われていました。

牧草が一年中ある地域では問題ありませんが、十勝のような寒い地域では冬にエサが不足してしまいます。その問題を解決したのが、エサの貯蔵庫であるサイロ。サイロを使えば、牧草を発酵させてエサとして保存することが出来たのです。

次は乳搾りです。絞り手である人間がバケツを携え、毎日毎日、手絞りをしていました。当然ですが、搾乳をする牛は全て子供を産んだお母さん牛。私達は母牛が子牛に飲ませるための乳を頂戴しているのです。昔は、搾乳される母牛の傍らに子牛を連れてきたそうですよ。



いっぱい牛乳を出す元気な牛を育てるためには、牛舎をこまめに掃除して清潔な環境を作ることが必要です。牛が病気にならないためにも、フンで汚れた敷きワラを毎日取り替えて、綺麗な寝床を作ってあげなければなりません。

牛のお世話をする人は、健康な牛を育てるために目が離せません。これ以外にも病気の牛をお世話したり、子牛の面倒をみたりなど、忙しく大変な中、愛情をもって牛と向き合い、子牛から妊娠・出産を経て牛乳が出るまでの長い年月をともに過ごすのです。



※写真提供：十勝農業協同組合連合会